

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット1		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	平成29年10月19日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2391200165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は幹線道路から少し入った閑静な住宅地に位置しており、近くには小・中学校や公園がある。1階に小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、2階と3階がグループホームとなっている。開設して3年を迎える事業所は、音楽療法や体操教室が定例イベントとなり、地域のボランティアの受け入れにも積極的で、入居者や地域の方々を交えて”うるるかむ「たのしい家鶴里」「また来たい！」と思われるような活動を管理者自らが先頭を立てて展開している。地域とのつながりを持つために一部の食材は地元のお米屋やパン屋、牛乳屋から購入している。地域の盆踊りや運動会、清掃活動や防災訓練に積極的に参加したり、小・中学校や幼稚園と交流をしている。事業所内の夏祭りには地域の方々を招いて、皆さんで楽しみながら事業所の取り組みを知っていただき、事業所をより身近に感じてもらえる工夫を重ねながら地域とのつながりを深めている。入居者は、1階の小規模施設で開催されるイベントに参加したり、明るく温かい居間で団楽をしたり、テレビを見ながらのんびりとくつろいでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った閑静な住宅地に位置し、近くには小・中学校や公園がある。1階に小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、2階と3階がグループホームとなっている。開設して4年を迎える事業所は、音楽療法や体操教室が定例のイベントとなり、地域のボランティアの受け入れも積極的に行っている。9項目の法人の理念を基礎として職員全員検討し、事業所としての新たな理念を作り、職員間で共有し日々のケアに繋げている。また、外部評価に真摯に取り組み、「次のステップに向けて期待したい内容」について改善に向け職員で検討をし、改善を図り運営に活かしている。入居者は、1階の小規模施設で開催されるイベントに参加したり、明るく温かい居間で団楽をしたり、テレビを見ながらのんびりとくつろいでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所理念を職員間で決め、実現に向けて実践している。	9項目の法人の理念を基礎として、現場の実情を踏まえ職員全員で事業所の新たな理念を作った。研修会や職員会議、カンファレンスなどの折に確認して共有を図り、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、事業所のイベントに地域住民を招待し交流を図る他、新たに移動スパーを誘致し更なる交流を図っている。	町内会に加入し、地域の実情や情報を把握するとともに、地域にも事業所の情報を発信している。盆踊りや運動会など地域の行事にも参加するとともに、事業所の建物の一部を地域に開放し双方向的に交流している。散歩や買い物などを通して地域と関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口を設置し、相談者の方々に介護保険制度の説明や介護サービスの提案を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、家族・公民会町・地域包括等に報告を行っている。また意見交換の場を設けそこでの意見をサービスの改善に活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催され地域、家族、公民会長、行政関係者などが参加している。会議では運営報告やサービスの状況、課題など報告するとともに、意見や要望などを話し合っている。要望事項は検討し、運営に反映させている。議事録は家族にも配布している。	地域の代表として公民会長が継続的に参加されているが、民生員や音楽療法参加している方など他の地域の住民が参加できるような仕組みづくりを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの取組み状況は伝えてはいるが、運営において困った点があればその都度電話で確認をとり対応している。	困難事例を受け入れたり、運営上の問題がある場合は相談、指導を受けるなどして、関係性を深めている。市が行う研修会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画をに基づき身体拘束に関する研修を行い身体拘束をしないケアに努めている。	法人の研修会に参加し拘束の弊害を理解し、事業所内でミーティング時に話し合いをしている。スピーチロックなど職員間で声を掛け合いながら防止に努め、拘束感のない支援につなげている。管理者はケアの状況を見ながら適宜介入したり、助言しながら拘束への気づきを促している。出入口は安全性を考慮し施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画をに基づき虐待に関する研修を行なうほか、会社内で通報窓口を設置し、虐待の未然防止や万が一虐待が発生した際に見過ごされない仕組みを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会があるが深くはない。実質成年後見制度等に関わる者が管理者のみのため職員までは活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には各家族にむけて改定した重要事項説明書を基に説明を行い、その都度説明・同意をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に運営推進会議の記録等を保管し、外部者が確認できる状態にしている。	入居者からは、日々のケアを通して希望や要望を聞いている。家族からは来訪時や運営推進会議、意見箱、電話などで意向や要望を把握している。また、年1回満足度調査を行い、その結果も開示している。意向や要望はカンファレンス等で検討し、結果を閲覧して運営に反映させている。検討内容や結果はホーム便りでお知らせをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の中で職員の意見や提案を聞き入れて運営に活かしている。	日々の業務の中で意見や要望を聞くとともに、スタッフ会議でも要望や意見を聞いている。年1回職員に対しアンケートを実施して分析し、課題や問題などについては速やかに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価を基に職員と管理者の面談を基に昇給を行っている。また法人としても給与水準の引き上げに対し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間研修計画に基づいて行う他、個々のキャリアアップのために資格取得支援を行い、働きながらスクールに通える環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で各事業所の活動内容等についての意見交換は行ったが、外部とは交流する機会は持てなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者宅に訪問しアセスメントを行い、本人への意見に耳を傾け入居後も自宅で行っていたことを可能な限り継続できる提案を行い安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見に耳を傾け、今まで在宅にて介護を頑張ってくられたこと等ねぎらいの言葉をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望に大きな相違がないように調整した上で、ADLの状況に応じて福祉用具導入の提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる活動を把握し、利用者ともに調理や洗濯量み等を行い暮らしを共にする関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に医療面に関する状況報告や、来訪時に生活状況の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ADLの低下から外に出掛ける機会は少なくなっているが、知人の訪問については歓迎し関係が途切れないように努めている。	地域に住んでいた人が多く、知人などが気軽に訪ねて来て旧交を温めている。毎週、移動スーパーが来所して、馴染みの場所として定着している。近所の人にも利用しているため、新たな馴染みの関係が出来つつある。年賀状は希望者と一緒に作り差出しており、これまでの馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の変化に伴ない、利用者間の関係が保てるように席の配置換えを随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の困りごとがあれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難になってきているが、職員間でカンファレンスノートを職員間で共有し、入居者本位に検討している。	日々の暮らしの中で傾聴に努め、思いを把握している。意志表示の難しい方には、しぐさや、表情、行動で推測したり、家族にも確かめたりしている。思いや意向はカンファレンスノートに記録して共有し、ケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで本人・家族から生活歴や生活環境等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰介護を行わないように利用者のできる部分については行っていただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・関係者からの意見は来訪時や電話でのヒアリングにを行い介護計画の作成に努めている。	家族からは来訪時や電話で意見や意向を聞き、主治医からの意見や看護師、薬剤師、職員、計画担当で入居者の状況を基にカンファレンスを行い、見直しの前にモニタリングを行って計画を作成している。基本的には3ヶ月に1回のモニタリング、6ヶ月に1回定期的に見直しを行っている。必要に応じ随時見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやスタッフ会議からケアに関する見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の低下に応じて訪問マッサージ利用の提案等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源の把握や発掘のため回覧板や広報を確認している。そこから移動スーパーの事業所への誘致にも繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診や希望利用者に対しては歯科往診、医療連携で週に1回看護師の健康管理と安心して医療を受けられる支援を行っている。	入居時にかかりつけ医か協力医の希望を聞いているが、入居者全員がホームの協力医にかかりつけ医を変更している。内科の往診は月2回で歯科や眼科の協力体制もあり、緊急時の体制も整っており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	モバイルネットワークや電話連絡にて状態変化があった際には報告し助言をいただくように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院を訪問して医師や看護師との話し合いを行ったり、電話にてケースワーカーと退院調整を行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階で終末期の対応はないが、医療関係者との関わりは密に図っている。	入居時に重度化や看取りについて事業所の方針を説明し、意向を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族と話し合い意向確認をしている。家族や医師、看護師、職員など関係者と話し合い方針を決め、入居者にとって最善の援助が出来るように支援している。医師、看護師、家族、職員関係者で連携を取りながら看取りを行っている。職員のメンタルケアも含めての体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携の看護師より救急時の対応に関する研修の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えての避難訓練を実施している。地域を交えての協力体制については消防署の協力をえて今後どのように関わりを持ち有事の際に対応していくのかを考えている。	火災や水害発生を想定した避難訓練を実施している。事業所は地域の一時避難場所にもなっている。地域との協力体制の構築は消防署の協力を得つつ模索中である。食料や水の備蓄は職員分も含め3日分で簡易トイレや毛布も準備している。	運営推進会議の中などで話し合うことにより、地域との具体的な協力体制の構築を望みたい。運営推進会議と避難訓練を同日に行うなどの工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の大先輩である気持ちを忘れず必ず「さん」付で声掛けを行っている。	自分を尊いと思う気持ちを傷つけないよう、言葉使い、振る舞いなど、入居者と目線と同じにして、否定しないように対応している。接遇、人権、虐待等の研修を年1回実施しており、全員受講することによって、人生の大先輩としての畏敬をもち、質の良いケアを維持していくように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	転倒リスクのある利用者の立ち上がり行為が多くなっているが、スピーチロックに配慮し、本人の意思を確認する声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は基本共有スペースで過ごす時間が多いが、希望があれば居室で1人で過ごす時間や臥床時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定できる利用者のご自身で衣服の選択をしていただいている。また2ヶ月に1回訪問美容を行い希望に応じたカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に応じて調理を一緒におこなったり、盛り付けの手伝いを行っていただいている。	食材と献立は業者に委託し、事業所で調理している。献立は、入居者の希望も入れられている。保有能力に合わせて、配膳や片付けなどを手伝っている。イベント時の行事食も考えて、食事を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が困難になってきているが、食事量を維持できるよう時間をかけて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄間隔を考慮しながら声掛けを行いトイレ誘導をし排泄の失敗・おむつ使用の軽減に努めている。	排泄チェック表を参考に、表情や動作から声掛けや誘導を行っている。食べ物や水分摂取の面からも配慮している。夜間の排泄に関しては、安眠を重視しているが、状況に応じトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日地域の牛乳屋から牛乳をとり、随時提供を行っている。薬の関係で牛乳の接種が難しい利用者には医師に相談し、整腸剤での対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と午後の入浴時間を設けて提供をしているが、拒否が強い利用者については時間を変更して声掛けをおこなったり日を改める対応をしている。	週2～3回の入浴で、入浴の度に湯は入れ替えている。入浴剤は特に使用していないが希望があれば使用も可能である。同性介助にも対応している。菖蒲湯など季節を楽しむ支援も行っている。長湯に入ることもできる。寒冷期の脱衣所のヒートショックも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に安眠を促せるように毎日1名は必ず布団干しやシーツ交換を行う対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の副作用を理解し、飲み物の提供では個々に応じて変える対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理やカラオケ、外食の機会を企画する等利用者の力を活かした役割や気分転換が図れる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力をえて外出に出掛けられる利用者があることや、天候の良い日には近隣の公園への散歩に出掛けている。また今後は移動スーパーにより戸外に出掛ける機会が増えることが見込まれる。	フロアーごとに、天気の良い日は近隣の公園に出かけている。行事的な外出として季節に合わせて初詣、花見、モミジ狩りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理を行っており、日用品や訪問美容代等必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年家族宛に手作りの年賀状を送り支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物を作成し、利用者が四季を感じられる対応を行っている。また光に対して不穏を招くケースもあり、不必要な光は隠して対応している。	共用の居間は明るく落ち着いた部屋となっている。壁には季節感のあるちぎり絵や作品が飾られ、部屋の温度や湿度も調整され過ごしやすくしている。毎朝空気の入替えを行っている。掃除の出来る方は参加し、職員と協力して居心地の良い空間を作っている。入居者は温かい日差しの中でソファーに座りテレビを見たり、食卓で会話をしたり、のんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファーを設けているため一人になる時間や利用者同士で思い思いに過ごせる場所の提供をしている。また利用者間の関係性に応じて席の配置換えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただき、家族の写真やテレビを置かれ居心地良く過ごすことができるようにしている。	入居者は家族の写真や好きなグッズなどを飾り、自分の部屋作りをしている。入口には本人の名前と写真を貼り、間違えないようにしている。掃除ができる人は自分で行っている。編み物など自室で行う入居者もおおり、居心地の良い居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など残存能力を活用するためにも手摺を多く設置しているほか、ADLに応じた洗面所を設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット2		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	平成29年10月19日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2391200165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを深めるため地域住民を交えた音楽療法・体操教室を毎月開催し、年に1回は夕涼み会を行い交流を図っている。また地域の催し物(盆踊り大会、運動会)への参加や作品展への出店等積極的に行っている。また、地域の社会資源を守っていくためにも米やパン、調味料等は近隣の商店から購入を行っているほか今年度より移動スーパーの停車スペースを誘致し、入居者の商品を購入する楽しみの構築や些細ではあるが外に出る機会を持てるようにしている。また移動スーパーは当事業所だけではなく近隣住民の方々も利用されるため継続して利用していくことで顔なじみの関係を築くことができるのではないかと期待している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った閑静な住宅地に位置し、近くには小・中学校や公園がある。1階に小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、2階と3階がグループホームとなっている。開設して4年を迎える事業所は、音楽療法や体操教室が定例のイベントとなり、地域のボランティアの受け入れも積極的に行っている。9項目の法人の理念を基礎として職員全員検討し、事業所としての新たな理念を作り、職員間で共有し日々のケアに繋げている。また、外部評価に真摯に取り組み、「次のステップに向けて期待したい内容」について改善に向け職員で検討をし、改善を図り運営に活かしている。入居者は、1階の小規模施設で開催されるイベントに参加したり、明るく温かい居間で団欒をしたり、テレビを見ながらのんびりとくつろいでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所理念を職員間で決め、実現に向けて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、事業所のイベントに地域住民を招待し交流を図る他、新たに移動スーパーを誘致し更なる交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口を設置し、相談者の方々に介護保険制度の説明や介護サービスの提案を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、家族・公民会町・地域包括等に報告を行っている。また意見交換の場を設けそこでの意見をサービスの改善に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの取組み状況は伝えてはいるが、運営において困った点があればその都度電話で確認をとり対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画をに基づき身体拘束に関する研修を行い身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画をに基づき虐待に関する研修を行なうほか、会社内で通報窓口を設置し、虐待の未然防止や万が一虐待が発生した際に見過ごされない仕組みを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会があるが深くはない。実質成年後見制度等に関わる者が管理者のみのため職員までは活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には各家族にむけて改定した重要事項説明書を基に説明を行い、その都度説明・同意をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に運営推進会議の記録等を保管し、外部者が確認できる状態にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の中で職員の意見や提案を聞き入れて運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価を基に職員と管理者の面談を基に昇給を行っている。また法人としても給与水準の引き上げに対し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間研修計画に基づいて行う他、個々のキャリアアップのために資格取得支援を行い、働きながらスクールに通える環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で各事業所の活動内容等についての意見交換は行ったが、外部とは交流する機会は持てなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者宅に訪問しアセスメントを行い、本人への意見に耳を傾け入居後も自宅で行っていたことを可能な限り継続できる提案を行い安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見に耳を傾け、今まで在宅にて介護を頑張ってきたこと等ねぎらいの言葉をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望に大きな相違がないように調整した上で、ADLの状況に応じて福祉用具導入の提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の補助や洗濯干し・畳み、食器洗い等を役割をもって行うことで利用者の生きがいを持つ支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に医療面に関する状況報告や、来訪時に生活状況の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問については歓迎し関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の変化に伴ない、利用者間の関係が保てるように席の配置換えを随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の困りごとがあれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難になってきているが、職員間でカンファレンスノートを職員間で共有し、入居者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで本人・家族から生活歴や生活環境等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰介護を行わないように利用者のできる部分については行っていただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・関係者からの意見は来訪時や電話でのヒアリングにを行い介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやスタッフ会議からケアに関する見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	転倒による事故を未然に防ぐために福祉用具の提案を行い、ADLの維持・向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源の把握や発掘のため回覧板や広報を確認している。そこから移動スーパーの事業所への誘致にも繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診や希望利用者に対しては歯科往診、医療連携で週に1回看護師の健康管理と安心して医療を受けられる支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	モバイルネットワークや電話連絡にて状態変化があった際には報告し助言をいただくように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院を訪問して医師や看護師との話し合いを行ったり、電話にてケースワーカーと退院調整を行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・施設管理者・計画作成担当者・家族を交えた話し合いの機会を事前に設け終末期に関する話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携の看護師より救急時の対応に関する研修の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えての避難訓練を実施している。地域を交えての協力体制については消防署の協力をえて今後どのように関わりを持ち有事の際に対応していくのかを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した上ではあるが、「さん」付け以外に芸能人の名前でも呼ぶこともみられる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室で過ごしたい利用者については閉じこもりには配慮しつつ利用者本位で生活出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は基本共有スペースで過ごす時間が多いが、希望があれば居室で1人で過ごす時間や臥床時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定できる利用者のご自身で衣服の選択をいただいている。また2ヶ月に1回訪問美容を行い希望に応じたカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事作りや盛り付け、食事、後片付けまで一貫して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態等に応じて食事形態を変更しての提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い各利用者に応じてスポンジブラシを用いたりしながら口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄間隔を考慮しながら声掛けを行いトイレ誘導をし排泄の失敗・おむつ使用の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日地域の牛乳屋から牛乳をとり、随時提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前と午後の入浴時間を設けて提供をしているが、拒否が強い利用者については時間を変更して声掛けをおこなったり日を改める対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に安眠を促せるように毎日1名は必ず布団干しやシーツ交換を行う対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の副作用を理解し、飲み物の提供では個々に応じて変える対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や手芸、カードゲーム、塗り絵、貼り絵、外食の機会を企画する等利用者の力を活かした役割や気分転換が図れる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力をえて外出に出掛けられる利用者があることや、天候の良い日には近隣の公園への散歩に出掛けている。また今後は移動スーパーにより戸外に出掛ける機会が増えることが見込まれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理を行っており、日用品や訪問美容代等必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年家族宛に手作りの年賀状を送り支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リアリティ・オリエンテーションの観点から利用者を日付の確認を行うためにホワイトボードでカレンダーを作成し活用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを設けているため一人になる時間や利用者同士で思い思いに過ごせる場所の提供をしている。また利用者間の関係性に応じて席の配置換えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただき、家族の写真やテレビを置かれ居心地良く過ごすことができるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など残存能力を活用するためにも手摺を多く設置しているほか、ADLに応じた洗面所を設置している。		